

# 帯広圏デジタル化推進協議会 アドバイザリーボード 会議議事概要

日時：令和8年1月30日（金）

17時00分～18時00分

場所：帯広市役所10階第3会議室

## 1 議題1：帯広圏デジタル化推進構想における4自治体のデジタル化の取り組み について（意見交換）

- ・はじめに、配布資料について事務局より説明し、次のとおり意見交換を行った。要旨は以下のとおり。

### <委員>

- ・業務の効率化により生じた余力をどの分野に再配分するかという視点が重要。
- ・スタートアップ系企業を応援していく姿勢は大事だが、事業継続の観点でのリスクも考慮した方がよい。
- ・生成AIは情報管理に注意しながら活用を進めていくべき。成果は指示の質に左右されるが、誤解の生じにくい文章や正確な指示の出し方は、行政文書そのものと感じる。
- ・現在は、専門知識がなくてもアイデアをコード化できる時代なので、自治体職員も積極的に取り組んで行くと良いと思う。
- ・住民のためにデジタルを活用して行政が取り組みを進めているということ、見える形でPRすることで、住民から共感を得られ、地域への定着に繋がる可能性もある。

### <委員>

- ・報告いただいた取り組みは多面的・包括的であり評価したい。住民の暮らしやすさと行政の働きやすさを両立する手段としてデジタルは重要で、できることから着実に進めていくことが大切。
- ・医療アクセスの関係では、個人情報取り扱いなどセキュリティ上の課題はあるが、蓄積されたデータを効果的に活用することで、適切な医療機関への案内等ができることと市民サービスの向上に繋がるのではないかと。
- ・生成AIの活用により、苦情やカスハラ対応の改善など、新たな価値の創出が期待できる。
- ・マイナンバーカードは、利用用途が限定されているが、地域でも使いやすい形となれば、活用の幅を広げることができるのかなという印象を持った。
- ・行政サービスを広域的に分担・分業するなど、効率的な仕組みを構築できれば、人的資源の最適化に繋がるのではないかと。

### <委員>

- ・構想策定時に掲げていた項目毎に、目指す到達点と、そこに至るまでの進め方など、進捗状況が分かるような一覧があると良いのでは。
- ・導入・運用・クローリング各期での成果や効果などを可視化し、説明に活用できるようにしていくのも良いと思う。
- ・各種 AI サービスのモデルが進化していく中、ビジネスモデルも変化してきており、導入・運用経費の考え方や自治体と民間の連携・役割分担等を含めて、再検討する必要がある。
- ・2～3年後には、様々な分野でロボットが普及していくこと等を見据えると、本構想の取り組みも、適宜、アップデートすることも検討する必要があるか。
- ・医療周りでのデータ連携について、PMHの取り組みの紹介があったが、産前産後期の母子健康手帳データ連携の動きなどもある。基礎となるデータベースやハブ機能を公共で整備し、そこに民間アプリが接続できる環境が整備されていくと良い。
- ・防災面では「物資」と「人」を一体的に管理する体制や仕組みを強化する必要があると感じている。

### <委員長>

- ・技術革新の加速により、これまで取り組んできたことが陳腐化していくことも考えられるので、別の手段も想定しておく必要がある。
- ・AI技術の活用による医療機関へのアクセス改善などは、通院需要を減らし、公共交通需要にも波及する可能性もある。受益者・消費者など全体を俯瞰して、取り組みの繋がりや影響関係を意識していくことも必要。
- ・背景にある共通の課題毎に、デジタル化の進捗や各取り組みの関連性を可視化できるようになると、一体性を持った取り組みとして捉えやすくなると思う。

## 2 閉会

### 事務局

- ・次回2月20日（金）首長参加の協議会を開催する予定。

以 上